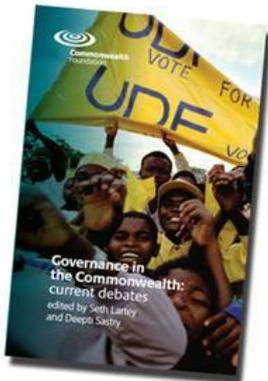


【概要】

- 『英連邦におけるガバナンス：今議論されていること』
- 国連社会開発研究所 (UNRISD) 所長の1年の反省
- 開発途上国における社会運動と貧困
- オランダ社会研究所 (ISS) からのニュース
- 包括的な開発のための国際政策センター (IPC-IG) 新刊
- 国を超えた NGO イニシアチブリーダーシップの「跳躍」に備えて？
- 国際障害者年
- アフリカ連合社会開発担当相会議

『英連邦におけるガバナンス：今議論されていること』



Seth Lartey と Deepti Sastry が編集したこの新刊は、2009年にトリニダード・トバゴのポート・オブ・スペインで開かれた英連邦人民会議での「ガバナンスと民主主義」ワークショップのプレゼンテーションを編集したものである。西・中央アフリカ、南アジア、カリブ、そして太平洋地域からのケース・スタディを引きつつ、本書は様々なガバナンスのデータベースを探索し、民主的なプロセスにおける効果的な市民参加について政策立案者に提言を行っている。

トリニダード・トバゴの西インド諸島大学の国際関係研究所教授兼所長である Timothy M. Shaw は、以下のように述べている。

「この出版物の著者は、ガバナンスと民主主義という、英連邦の原理原則にはどちらも必要不可欠なテーマを扱っている。ガバナンスと民主主義は、英連邦における市民社会にとって要となる原理原則であり、効果的で合法的な期間を支援する枠組みを作り上げるための一助となるものである。」

本書をご希望の方は、以下に連絡されたし。

[geninfo@commonwealth.int](mailto:geninfo@commonwealth.int)

ダウンロードはこちらから。

<http://www.commonwealthfoundation.com/NewsArticle.aspx?articleID=142>

国連社会開発研究所 (UNRISD) 所長の1年の反省

Sarah Cook は、国連社会開発研究所（UNRISD）の所長としての 1 年を振り返って、以下のように述べた（抜粋）。

「私の任期は、2009 年終わりの、世界金融危機の政治的・社会的様相に関する傑出した会議から始まりました。」（<http://www.unrisd.org/publications/cn25e>）

「世界がおかれた環境を示すものは、予算の削減、社会支出のカット、高い失業率、援助予算の締め付け、そして、近年の貧困削減や社会的利益を妥協することなくバランスの取れた成長を達成するための実行可能な政策の代替案に関する、今も続いている議論です。UNRISD にとって、こうした傾向は、社会開発についての研究に対する、新規かつ緊急の需要を意味すると同時に、そのような作業を開始するには限定的なリソース環境を意味するものです。それにも増してこの 1 年を象徴するのは、極めて高い不確実性です。私たちは、大いなる万人のための保障への希望をもって、2011 年に突入するのです。」

「UNRISD にとって、今年のハイライトはなんといっても長い間待ち望まれていた報告書『貧困および不平等との闘い』の出版でしょう。

[http://www.unrisd.org/publications/povertyreport\\_360page\\_USD45](http://www.unrisd.org/publications/povertyreport_360page_USD45)

詳細な経験に基づいた支援と政策オプションに加え、危機後に強化された開発論議および課題に対して、鍵となるメッセージが直接的に訴えかけます。即ち、不平等の複数の側面は、貧困削減と包括的な成長とに、分かちがたいほど密接に結びついているということ、生産的な雇用の創出が、経済成長の中心的なゴールであるべきこと、持続可能な貧困削減に必要な、成長、平等、社会再生、社会結合において、社会政策が基本的な役割を果たすこと、そして、政策プロセスにおいて貧者の声が届くようにする政治的調整の真摯な分析をこそ、貧困削減は必要としていること、です。」

#### **開発途上国における社会運動と貧困**

- <http://www.unrisd.org/publications/pp-bebbington>
- 著者：Anthony Bebbington（米国クラーク大学環境社会学教授および地理学大学院ディレクター）
- ペーパーNo.32
- 56 ページ

貧困と不平等は、どちらも社会における力の支配関係の産物であり、かつ生産者である。多くの定義により、社会運動は、社会における力の性質とその行使とを問いかけるものだと理解されている。また同様に、貧困と不平等の課題に満ちた関係においても一定の役割を果たすものである。本ペーパーでは、こうした役割のいくつかを探る。

本ペーパーは、まず社会運動の特徴、即ち、動機／出現／戦略を考察する。社会

運動においては、貧困削減の言葉よりも、正義および権利の言葉のほうがはるかに顕著である。社会運動がアイデンティティーに根ざした不満として「貧困」のマントを身にまとうことはほとんどなく、また、運動のリーダーたちで、自分たち自身あるいは自分たちのベースをそのように考えるものもほとんどいない。実際のところ、多くの運動が、貧困に焦点を当てた政策は、不平等と排除の構造から注意を逸らし政治的関心を失くす、と主張している。

#### **オランダ社会研究所 (ISS) からのニュース**

ISS は、『ISS ニュースレター』の1月号で、社会開発従事者にとって面白い情報をたくさん載せている。

<http://www.iss.nl/About-ISS/ISS-newsletter/General-Newsletter-no.15-January-2011#events>

『金融危機の間における開発途上国でのジェンダーの傾向』についての記事も載っている。本ペーパーは、前世紀の終わりごろに起きたいくつかの金融危機、即ち、アジア金融危機、ブラジル金融危機、アルゼンチン金融危機、そしてトルコ金融危機に目を向け、こうした危機前後の10年間についてデータを分析している。データには、教育、保健、そして労働市場におけるジェンダー指標（主として男女間のギャップ）が含まれ、分析された8つの国においては、この期間にジェンダー的には殆ど進歩がなかったか、むしろ後退したことが示された。対照群となるグループでは進歩が見られたことから、ふたつの国グループの間の差が広がる傾向が見られた。

#### **包括的な開発のための国際政策センター (IPC-IG) 新刊**

※ 全ての出版物は以下のサイトで見ることができる。

<http://www.ipc-undp.org/>

##### 1) 『社会保護は包括的成長の促進を助けることができるか?』

(著者 : Melissa Andrade、Fábio Veras Soares、Radhika Lal、Rathin Roy)

本ペーパーは、IPC-IC が主催し、2010年10月11~14日にかけて行なわれた『南 - 南』対話に基づくものである。ペーパーでは、『南』の各国政府が、能力や機会の拡大を協調する幅広い定義に満足していることを示している。

@ [Poverty in Focus # 22](#)

##### 2) 『世界の貧困と新「最底辺の10億人」：世界の貧しい人々の4分の3が中所得国内に住んでいるとしたら、どう思いますか?』

(著者 : Andy Sumner、Institute of Development Studies)

本ペーパーでは、世界の貧困の問題が変化してきている、と論じている。なぜなら、貧しい人々はもはや貧しい国、つまり低所得国に住んでいるわけではないか

らである。

@ Working Paper # 74 [One Pager # 120](#)

- 3) 『共同利益の最大化：環境変化への適応を通して平等および貧困削減を強化する機会を探る』

(著者：Leisa Perch)

(構造的、機械的意味ばかりでなく) 各国の燃料の伸びはどのように決まるのか？リソースへのアクセスを握っているのは誰か？マクロ的な意味で、それらはどう使われるのか？これらのアクションの持続性はどうか？本ペーパーでは、広範囲にわたる踏査を行い、結論を探すというよりも、オプションや構造的なものを探るという形になっている。また、各国の気候変動戦略についても、その採用を大きく扱っている。

@ Working Paper # 74 [One Pager # 120](#)

- 4) 『ブラジルにおける社会的支援の強化と課題、1988～2008』

(著者：Luciana Jaccoud、Patricia Dario El-Moor Hadjab、Juliana Rochet Chaibub、Institute for Applied Economic Research (IPEA))

本ペーパーは、2010年4月12～13日にブラジリアで開かれた「インドーブラジルー南アフリカ (IBSA) 学術フォーラム：政策対話 (the India-Brazil-South Africa (IBSA) Academic Forum: A Policy Dialogue)」において行なわれたセッション「包括的成長のための社会開発戦略 (Social Development Strategies for Inclusive Growth)」で発表された一連のペーパーの中のひとつである。

@ Working Paper # 76 [One Pager # 122](#)

- 5) 『現金給付とジェンダー化したリスクおよび脆弱性：ラテンアメリカの教訓』

(著者：Rebecca Holmes、Nicola Jones、Rosana Vargas、Fábio Veras Soares)

本政策研究ブリーフは、ブラジル、チリ、コロンビアおよびペルーにおける CCT で、ジェンダー化された経済および社会リスクについての主張がどの程度までだったかについて検証している。

@ [Policy Research Brief # 16](#)

- 6) 『モザンビークにおける食糧補助金プログラムの拡大の影響評価』

(著者：Fábio Veras Soares、Clarissa Teixeira)

本ペーパーは、2008年のモザンビークにおける食糧補助金プログラム (PSA) 拡大が目指したところと、その影響について、いくつかの主要指標において証明している。

@ [Policy Research Brief # 17](#)

### **多国籍 NGO イニシアチブリーダーシップの「跳躍」に備えて？**

シラキュース大学マックスウェル・スクールの Moynihan Institute of Global Affairs では、第一回の多国籍 NGO リーダーシップ講習会を発表した。

[www.maxwell.syr.edu/leadershipinstitute](http://www.maxwell.syr.edu/leadershipinstitute)

この特化された「跳躍」プログラムは、将来 NGO のトップの座を狙う、国際 NGO の新進気鋭のリーダーたちに、リーダーシップのトレーニングを提供するものである。9月15～19日、あらゆる地域、分野、そして規模も様々な組織からの専門家たちが、ニューヨーク州北部に集まり、費用対効果の高い、集中的かつ学際的なプログラムに参加する。いずれトップ指導者へと上り詰めるであろう参加者は、NGO のリーダーシップ、能力と才能の開花方法についての技術的な知識と共に、戦略的技術および分析技術も身につける。このプログラムによって、参加者は自分たちの個人的なリーダーシップのスタイルを吟味し、仲間たちと共に特定の能力、役割、そしてネットワークを広げていくことができる。

参加者は、「跳躍」しようとする際にぶつかる可能性の高い、以下の5つのポイントについてチェックすることになる。

- 複雑な状況における指導：関係者および問題点のより広大な展望
- 組織的ガバナンス：理事会のリーダーシップ、組織的な変更およびデザイン
- 協働：コミュニケーション、ネットワーク、パートナーシップ、共同的なガバナンスとリーダーシップ
- 力関係：政治、象徴的なリーダーシップ、転換期や危局におけるリーダーシップ
- 戦略的リソースの掘り起こし：配分と管理

[連絡先]

第一回の他国籍NGOリーダーシップ講習会への登録は、2011年1月1日に始まる。問い合わせは、シラキュース大学マックスウェル・スクールの教育学部長兼多国籍NGO講習会実務者管理、Tosca Bruno-van Vijfeijkenまで。連絡先は以下の通り。

(メールアドレス) [tmbruno@maxwell.syr.edu](mailto:tmbruno@maxwell.syr.edu)

(電話番号) +1 (315) 443-5073

以下のウェブサイトにより詳細な情報が掲載されている。

[http://www.maxwell.syr.edu/moynihan\\_tngo.aspx](http://www.maxwell.syr.edu/moynihan_tngo.aspx)

### **国際障害者年**

WHO は、2010年12月3日の国際障害者デーに、次の『障害に関する世界報告

書』の発行予定日を発表した。

[http://www.who.int/disabilities/world\\_report/en/](http://www.who.int/disabilities/world_report/en/)

この報告書は、入手し得る限り最高の障害に関する科学的エビデンスをまとめた、この数十年間で最初のものであり、2011年6月9日に出る予定である。発行に先駆け、認知度を高めるために、WHOはフェイス・ブックなども含めたメディア・キャンペーンを始めた。

[http://www.facebook.com/pages/World-Health-Organization-WHO/154163327962392?sk=app\\_4949752878](http://www.facebook.com/pages/World-Health-Organization-WHO/154163327962392?sk=app_4949752878)

また、障害を持つ女性たちが自分たちの人生について語る一連のビデオ・シリーズも出した。

<http://www.youtube.com/watch?v=w5QXcFk4kvA>

#### **アフリカ連合社会開発担当相会議**

2010年11月、「社会的包摂に向けた社会政策行動の強化」を話し合うために、担当相らが集まった。

開会の辞は、AUの社会問題コミッショナーであるH.E. Adv. Bience P. Gawanas氏が述べた。全文は以下を参照のこと。

<http://au.int/en/dp/sa/content/2th-session-african-union-conference-ministers-charge-social-development-khartoum-sudan>

英語、仏語、アラビア語、ポルトガル語によるコンセプト・ノートが見られる。

本ニュースレターの内容の引用・転載は、出展を明らかにする限り自由です。本ニュースレターに掲載された見解は、必ずしもICSWの方針であるとは限りません。

編集：ICSW 常務理事 デニス・コレル

ICSW 連絡先

P.O.Box 28957

Kampala

Uganda

Website: [www.icsw.org](http://www.icsw.org)

Email: [icsw@icsw.org](mailto:icsw@icsw.org)

Tel: +256 414 32 11 50